

第1回 糸魚川市廃棄物減量等推進審議会 会議抄録

1 日 時 平成22年9月10日(金) 13時30分開会
16時18分閉会

2 場 所 糸魚川市民会館3階会議室

3 出席者 ・委員16名

新井委員、池亀委員、入沢委員、内山委員、小笠原委員、北村委員
佐藤委員、中山委員、藤野委員、本庄委員、松澤委員、柳委員
山岸委員、山岸委員、山本委員、渡辺委員

(欠席) 池田委員、大月委員、福崎委員、穂苅委員

・小掠市民部長

・事務局【市民課】 金平課長、木下参事、

渡辺副参事、高野主査、七澤主査

(清掃センター) 渡辺センター長、野本係長、中村主査

【能生事務所】 中村主査

【青海事務所】 柵主任主査、二宮主任主事

【財団法人 日本環境衛生センター】

南技師

・傍聴者 なし

4 次 第

(1) 開 会 進行 金平課長

(2) 市 長 挨拶 米田市長

(3) 自 己 紹 介 各委員、事務局

(4) 正副会長の選出 事務局一任との発言あり、会長に山岸委員、副会長に小笠原委員を選出

(5) 議 事 進行 山岸会長

<主な質疑・意見>

各項目について資料に基づき説明し、その後委員から質疑・意見をいただいた。

① 糸魚川市ごみ処理基本計画 第1章～第6章までの修正内容について

委員) 第1章1-1について、「一般廃棄物のうち生活排水については…」とあるが、

私の間違いでなければ、生活排水は一般廃棄物ではなかったと記憶しているが、後で確認して検討してほしい。

第2章2-5について、表中に「3R（スリーアール）」の記述があるが、用語解説があった方がよい。

2-13について、説明文の中で「卸売業では、…の3業種が占めています。小売業では…飲食料品小売業が50%を占めています。」とあるが、卸売業の何を占めているのか。また、小売業の何が50%を占めているのか。言葉が足りないように感じるので、もう少し言葉を補足して丁寧な文章に直した方がよい。

2-14について「観光客数は平成17年度から天候や、不況等の影響により…」とあるが、資料元の交流観光課でそのような見解がされているのであれば差し支えないが、担当者の個人的見解であれば修正した方がよい。

その後「交流人口の拡大が見込まれます。」とあるが、文頭の「観光客数」という言葉と一致していないので、文章として用語を統一すべきと思う。

第3章3-2「総ごみ排出量」という用語が使われているが表現が不明瞭で「1人1日当たり総ごみ排出量」を指すのであれば、そのように記述すべき。

3-9「…最終処分量は1,290トン…」とあるが、3-10の表3-9にはそのような数値にはなっていないがなぜか。

委員) 3Rについて、今は+2Rで5Rという表現も使われるようになっており、説明もそのように修正した方がよいのではないか。

事務局) ご指摘の点について事務局で再度確認・検討したうえで、適切な内容に加除修正等させていただく。

委員) 5Rについては、他の記述内容にも関連するので、本計画内では3Rという表現で統一した方がよい。

委員) 第4章表4-1の「実績人口」について説明願いたい。

4-6(3)の発生抑制の目標数値について、前回と数値が違うが、今回の数値が正しいということでしょうか。

事務局) 実績人口はH21までで、H22年以降が推計人口となるので、その旨を明記するように修正する。

4-6(3)の目標数値については、単純に国の設定目標に当てはめると現在の排出量とほとんど変わらない数値になってしまうが、3-2にもあるとおり、同規模の都市との全国平均値と比較すると当市は100g以上高い水準にあるため、国の設定目標よりも更に少ない「890g」に設定した。この数値が適切かどうかについては、改めて皆様からご審議いただきたい。

事務局) この点についてはもっとも重要な事項であるが、どの程度が適切な数値であるかは、非常に判断が難しいところである。

委員) この目標を達成するには、いかに周知して広く市民に認知してもらうかが課題と思う。子どもへの教育という観点も重要と思う。

委員) 目標は、あくまで目標であり、その達成のための取り組みが重要であるから目標を低く設定する必要はなく、個人的にはこの数値でよいと思う。

委員) 実績を見ると家庭ごみは減っているが事業系ごみはほとんど減っていない。

事務局) 事業者への周知というのも重要と考えているが、景気が良くなると事業系ごみが増えるという過去の傾向もあるので一概には言えない部分もある。

委員) 5-16の記述内容で破碎選別処理施設については具体的記述がないが、現在はどうのように処理しているのか。

事務局) 現状は、上越の中間処理業者に依頼し、最終処分は出雲崎エコパークへ持ち込んでいる。記述内容については再度検討し、見直しさせていただきたい。

委員) 破碎施設については最終処分場をどうするのかということも密接に関係してくると思うが、個人的には現在の場所ではない、別のところに新しい施設を作るよう計画してほしい。

委員) ごみ減量化という表現があるが、EMS(環境マネジメントシステム)・ごみの有料化などへの「取り組み」か「推進する」等、具体的に記述してはどうか。

事務局) 減量の方法などについて検討させていただく。

委員) 6-1 進行管理の点検・評価の方法や仕方について、大変重要な部分と思うが、実際に市役所内にこれらを行うP D C Aの実施体制や組織はあるのか。もしくは、これから組織を作る予定が役所内にあるのか。

事務局) 全庁的な取り組みとしては行政改革の中で検討中ではあるが、現在のところ具体的な予定はない。結果的にそれぞれの組織内で個々にP D C Aサイクルを回すような形となっているが、環境審議会においては、審議会による評価、庁内委員会を設置して全庁的な評価・見直しを行っている。

事務局) これについても内部で検討ということにさせていただきたい。

② 糸魚川市ごみ処理基本計画 第7章 災害廃棄物処理計画について

委員) 第7章について、こういった計画を持つ必要があることは充分理解できる。

防災計画との兼ね合いという点もあると思うが、一般的感覚として、ごみの減量等を中心とした本計画には馴染まない、非常に異質なものに感じるが。

事務局) 防災計画の中でもごみ・し尿の処理については触れられているが、三条市の水害や中越沖地震に伴い、県から災害処理計画の策定について通知があったため、防災計画の内容よりもう少し踏込んだ計画の策定が必要となった。ごみの適正処理といった観点から本計画に盛り込ませていただいた。

他市でも同様の対応をしており、その旨ご理解をいただきたい。

委員) それも承知で質問させていただいたのだが、防災計画の中で本計画を詳しく盛り込んだ方が有用なのではという気もするし、本計画自体の純度が薄まるような気がする。

事務局) 別立てにするかどうかも含めて再度検討させていただく。

(6) 次回の日程について

事務局) 次回の審議会は、日程を調整し案内させていただく。

(7) 閉会